

いわき市における 災害時の民間支援連携事例

災害支援ネットワークIwaki（DSNI）

会長 馬目一浩

災害支援ネットワークIwaki (DSNI)

～ Disaster Support Network Iwaki ～

2021（令和3）年 2月にいわき市で設立した災害支援中間支援組織
令和元年東日本台風で行われた「いわき市被災者支援情報共有会議」
に参加していた市内の支援団体が、この会議を引き継いで設立された

現在、市内・市外を含め、16団体
（個人）の会員で構成され、会員には
消防士、助産師、社協職員、NPO団体、
JC（青年会議所）など様々
会長は市内の寺の僧侶



平時

- ◆定例会（1～2ヶ月に1回程度）
 - ・ 会員の活動報告や協力の依頼、SNSを使った広報活動
 - ・ 市外での発災時には被災地情報の共有
 - ・ 防災・減災の研究
- ◆市民対象に防災・減災研修会の開催、啓蒙活動

発災時

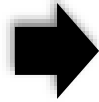
- ◆情報共有会議の立ち上げとまとめ役（被災規模に応じ）
- ◆SNSなどを通じ、内外の支援団体（者）へ会議への参加を呼びかけるとともに議事の発信を行う
- ◆市内の被災状況の正確な情報発信

設立までの経緯 ～2度の災害の経験から～

2011（平成23）年3月11日

東日本大震災発災

いわき市が情報共有会議を主催



当初民間参加は、社協の他、地元の1団体のみ

- ・外部支援（者）団体に対する行政の警戒感
- ・内外の支援（者）団体のまとめ役、繋ぎ役の不在



行政の情報が入るが、民間で情報共有・連携ができない・・・



民間の支援団体の活動がバラバラ・実態の把握ができない

復興期が過ぎれば各自元の事業に戻っていく（これまでの連携が途絶えてしまう）



次の発災時にまたゼロから

2019（令和元）年10月12～13日

令和元年東日本台風発災

10月31日「第1回いわき市被災者支援情報共有会議」が開催（週1～2回開催）

主催：いわき市災害ボランティアセンター・PBV（ピースボード 外部支援団体）

会場：いわき市災害ボランティアセンター（いわき市社会福祉協議会内）

参加団体（者）いわき市地域振興課・いわき市災害ボランティアセンター・
民間支援団体（者）など、市内外から延べ約30団体（個人）

いわき市（行政）：被災状況・避難所の状況の報告

災害ボランティアセンター：ボラセンの現状・進捗状況の報告

民間支援団体（者）：支援状況の報告と要望や要請



行政・社協・民間の三者連携が実現



三者連携のメリット、そして災害支援ネットワークIwakiの設立へ

- ・ 地元の支援者の負担が軽減する
- ・ 連携により支援が多様化
- ・ 被災者に支援が届きやすくなる
(支援に取り残されにくくなる)
- ・ 支援者(団体)の質の向上
- ・ フェーズに合った支援を行える・終われる
- ・ 外部支援者が被災地に入り易くなる
- ・ 真面目な支援者(団体)が集まる



次の災害への備え

連携の継続



災害支援に特化した中間支援組織の必要性

県域災害ネットの役割

◆いつ起こるか分からない災害に備え、各地に**災害中間支援組織ができやすい環境作りやその人材を育成**していく。

◆県内各地の災害中間支援組織が定期的に集まり、**お互いの顔が見える**関係性を築くことを継続的に行っていく手助けをする。

◆**地元をエンパワーメントする**

発災時には、地元の災害中間支援組織が最大限に能力を発揮できるよう、ニュートラルな視点・立場で地元中心の支援体制を構築するサポートをする。

黒子のような存在

県域災害ネット設立に向けて…

災害支援ネットワークIwakiの設立の目的として…、
「被災時に誰ひとり取り残されない支援の実現を目指す」とあります。

いつ起こるか分からない災害、これから福島県全体で日ごろから支援に携わる多くの人々が繋がり、平時から備えていくことで誰ひとり取り残さない支援の実現を目指し、共に取り組んでいきましょう！

ありがとうございました。

災害支援ネットワークIwaki (DSNI)

会長 馬目 一 浩